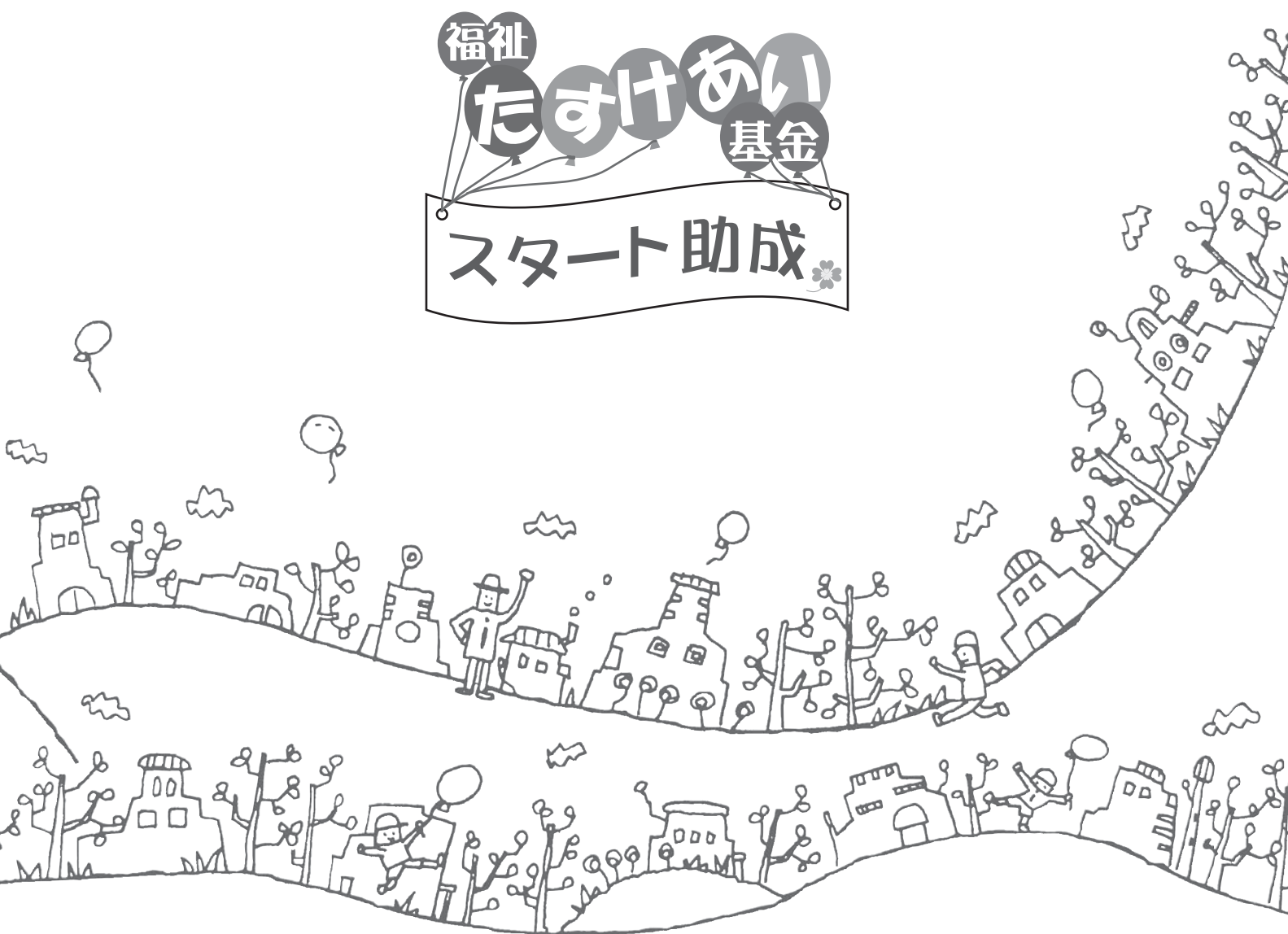


Vol. **3**

福祉たすけあい基金BOOK

5期の助成団体紹介

～福祉たすけあい基金5期は「スタート助成」です～



公益財団法人

かながわ

生き活き市民基金

Kanagawa Lively Citizens Fund

目次

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金は·····	3
福祉たすけあい基金とは·····	4
NEW 「福祉たすけあい基金スタート助成」で市民活動の立ち上げ支援·····	5
NPO 法人フォーラム・アソシエ·····	6
交流スペース「ほっと舎」運営委員会·····	7
ワークーズ・コレクティブ mon ami·····	8
スタイルきっず·····	9
ほんそん子ども食堂「いただきます」実行委員会·····	10
親と子の寺子屋 ふれあい自遊塾·····	11
1期～4期福祉たすけあい基金助成団体·····	12・13
子どもいきいき助成・事業指定助成プログラム「エラベル」助成団体一覧·····	14
キックオフ&地域フォーラム「子ども・若者の貧困に立ち向かう市民活動」を支援する福祉たすけあい基金·····	15
ご寄付のお願い·····	16



公益財団法人 かながわ生き生き市民基金は・・・

◆成り立ち

食料・環境・福祉の分野での問題解決を、市民参加型ですすめてきた生活クラブ生活協同組合（1971年創立）は、90年代初頭から、市民が時間・知恵・労力・いくばくのお金を出し合って当事者となる参加型福祉運動を実践してきました。その担い手は主にワーカーズ・コレクティブという働き方を行う女性たちでした。

1990年代当時、これら女性たちの意志ある社会貢献事業に資金を貸す金融機関は無いため、自前の財源による市民バンク（「女性・市民コミュニティバンク」の前身）をつくり、1998年から市民事業への融資を始めました。

生活クラブ生協は2003年に組合員に呼びかけて、福祉たすけあいにかかわる市民の福祉活動・非営利の市民事業の基盤造成・活動支援を行うための組織「生活クラブ福祉たすけあい基金」を設立しました。そして「生活クラブ福祉たすけあい基金」の10年間の助成活動の実践を経て、2013年にはこの事業を地域社会の中に押し出し、「公益財団法人かながわ生き生き市民基金」を設立しました。

◆ミッション

<投資して利潤を稼ぐことが経済>という考えが現代社会に蔓延しています。つまるところ、人々の社会生活は「経済成長」に付き従うべきだという主張につながります。しかし一方で、豊かな生活をつくるのが経済の目的で、お金はそのための手段であるという考え方があります。人と人との関係の中に「温かいお金」を循環させようという主張です。

私たちの社会は、格差・貧困が野放図にすすみ、個人の権利や尊厳が、労働・教育・環境・平和など生活の中心分野で損なわれつつあります。女性や若者、子どもや障がいを持つ人が生きにくい社会になっています。

かながわ生き生き市民基金は、ひとりでは支えきれない地域社会の課題の解決を、お互い様から始め、更に相互扶助に留めず、人・団体・活動を、お金や情報の循環でつなぎ、市民が持つ知恵・労力・時間・いくばくのお金などの社会資源を抛出し合い、市民が共に力を合わせ、自立した「地域市民社会」をめざします。

◆基金の事業・活動

かながわ生き生き市民基金の中心事業は、市民による寄付造成とこれを財源とした助成を通じた市民活動・事業への支援です。現在3つの助成プログラムを行っています。

福祉たすけあい基金（2015年度から通常型助成とスタート助成を実施）は、意思ある生活クラブ組合員1万1千人の月100円寄付を基本財源とした助成プログラムです。事業指定助成プログラム「エラベル」は、登録した団体が寄付募集活動を行い、財団はこれを支援します。オーダーメイドプログラム（2015年助成の「子どもいきいき助成」）は寄付拠出者が助成プログラムを指定します。

助成事業以外には、講座事業、ネットワーク事業などを行っています。



福祉たすけあい基金とは

かながわ生き生き市民基金の助成事業の一つに留まらず、かながわ生き生き市民基金を支える基金です。福祉は人々の生活そのものといってよく、福祉たすけあい基金では高齢者・子ども・女性、外国人、障がい者など様々な弱い立場の人々を支援する活動に助成しています。

福祉たすけあい基金の特徴 ～1万人に支持される基金～

98%以上にあたる寄付が生活クラブ組合員1万1千人の毎月100円の寄付で寄せられています。このことは福祉たすけあい基金の強みであり、弱みであると言えます。顔の見えるおおぜいの支持者をさらに拡げつつ、ミッションを伝え地域の寄付者を拡げていかなければならないと考えています。

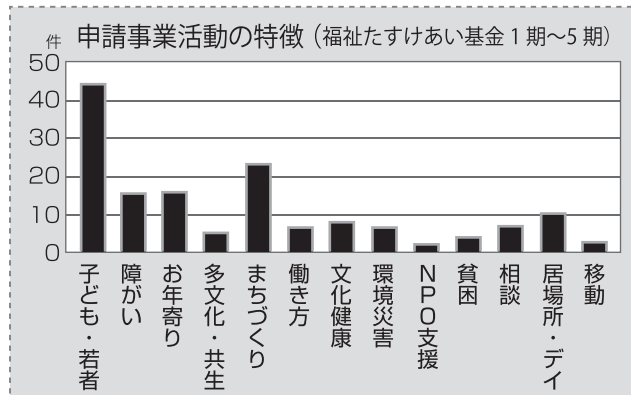
福祉たすけあい基金にはこれまで117団体から約7,000万円の申請があり、51団体へ1,733万7,683円を助成しました。

1期～5期の実績（5期はスタート助成）

1期	助成2014年4月	申請34団体 約2400万円	助成9団体 451万4100円
2期	助成2015年2月	申請17団体 約700万円	助成12団体 394万4950円
3期	助成2015年5月	申請34団体 約2400万円	助成11団体 382万2000円
4期	助成2015年8月	申請20団体 約1000万円	助成13団体 338万9000円
5期	助成2016年3月	申請12団体 約390万円	助成6団体 166万7633円

申請事業活動の特徴

福祉たすけあい基金への申請の特徴としては、子どもが豊かに生きるための支援、孤立して子育てしがちな親支援、障がいを持っていても豊かに生きる支援、生きづらさを抱える若者支援などを含む子ども・若者を支援する活動が多い点があります。また支援に「居場所」という手法が増えてきています。また子どもの貧困そのものを課題として活動するフードバンクや子ども食堂、学習支援活動からの申請も増えてきました。



市民活動の先駆性・有効性・参加性・持続性、そして社会を変える意気込みに期待

選考に当たっては、事業・活動の先駆性や有効性ととともに、広く地域の人々や団体と連携し、時間・知恵・労力・お金などを拠出しい、市民が主体となり地域の課題を解決する参加性が重視されます。また市民事業・活動を生み出し、育成し、事業拡大するだけでなく、市民の実践を根拠にアドボカシー活動を行い、社会を変えていく志が拡がることが期待されています。

選考委員（敬称略）

委員長 小山紳一郎	横浜市にしく市民活動支援センター センター長
田中 夏子	研究者（前）都留文科大学 教授
米田佐知子	（特非）子どもの未来サポートオフィス 代表
奥山千鶴子	（特非）びーのびーの 理事長
高城 芳之	横浜市指定NPO法人アクションポート横浜 事務局長
瀬下 章子	市民事業創出支援室 副室長
城田 喜子	生活クラブ生協 副理事長
小林 洋子	さがみ生活クラブ生協 理事



「福祉たすけあい基金スタート助成」で市民活動の立ち上げ支援

NEW

市民活動の立ち上げを支援したい

福祉たすけあい基金には様々な市民活動団体から申請があり、その中で小規模ながらも地域の中で意志ある市民が集い活動するアソシエーション等からの申請も多々あります。地域では多様化するニーズを捉え、地域に根差した必然性のある活動が行われていますが、活動を継続させるための資金、人材、情報など運営基盤が脆弱で、立ち上げ初期での厳しい運営状況にある団体も垣間見られます。今後、市民が主体となって、多様性を受け入れる共生社会をめざすためには、意思ある市民が市民社会の課題を解決する活動を資金面や運営面のアドバイスなどで応援していく仕組みが必要です。

※ここでいうアソシエーション活動とは、意思ある市民が自主的につどい、行っている比較的小さな活動のことを言っています。



「福祉たすけあい基金スタート助成」を創出

福祉たすけあい基金は現在、1年に2回の助成を行っています。そのうち下期に行う1回を、アソシエーション等の活動の立ち上げや、活動自立するまでの最初の期間を応援する助成として「福祉たすけあい基金スタート助成」を創出しました。

スタート助成は、比較的小規模な活動の立ち上げや活動初期等の基盤づくりを応援していくために、活動年数は3年未満、事業規模は直近の年間収入300万円未満として制限を持たせます。また、最初の助成を受けてから最長3回まで同じ事由で申請することができ、継続的な支援が出来るようにします。(ただし年度ごとに助成申請していただき選考を行います。)

	福祉たすけあい基金（通常型）	福祉たすけあい基金スタート助成
助成総額	400万円	400万円、2016年度は500万円目標
1件当たり上限	100万円	40万円
活動回数の制限	無（同じ事業では複数回助成しない）	最長3回まで同じ事業で申請可能
活動年数の制限	無	初回申請時団体設立後3年以内
事業規模の制限	無	初回申請時直近の事業収入300万円未満

市民活動を市民が支援する寄付を拡げよう

当財団では、これら市民の活動の立ち上げが豊かに拡がることを期待し、助成金額の増額をめざし寄付拡大に努めます。2016年度は「子ども・若者の貧困に立ち向かう市民活動を支援する」をテーマに活動し、助成金総額として通常のたすけあい基金400万円、スタート助成500万円を目標に寄付を募ります。

団体紹介

設立年月

2016年4月1日

団体の目的・活動内容

NPO法人フォーラム・アソシエは、市民に対して、生活に根差した「生きる力」を引き出すための体験および対話の場の提供に関する事業を行い、自分で考え自分の意思で行動する次世代の担い手を生み出し、子ども一人ひとりの笑顔が自分らしく輝く希望と多様性に満ちた社会の実現に寄与することを目的としている。

取り組んでいる活動の思い

今、私たちの予想を超えた速度と質で社会は変容し、一人ひとりが人間として大切にされにくい社会状況は深刻さを増しています。また、格差は若年層にまで広がり、次世代を担う子どもや若者が未来に希望を持ちにくい閉塞感のある社会になっています。さらには、市民の自発的で自主的な集まり、対話の場そのものが脅かされかねない危機感を覚えることすらあります。

私たちは、この時代の転換期にあることを自覚し、子どもを真ん中に置いた人のつながりが多様にある社会をこれからの当たり前にしていきたいと考えます。そのために、まずは大人の意識を変え、行動につなげるため、非営利の事業と活動をしていきます。

団体情報

住所 横浜市港北区新横浜2-8-4
オルタナティブ生活館5階
TEL 045-472-7093
Mail info@f-associa.com
HP
<http://forum-associa.jimdo.com>

❀ 助成した事業・活動

食と農および生活文化に関する教育事業における「おるた家族食堂」スキーム

❀ 内容

孤立化・無縁化が進む地域で、食でつながる家族体験の場「おるた家族食堂」を提供し、その仕組みをつくり運営を行う

❀ 助成対象

「おるた家族食堂」会場費、冷蔵庫などの備品、広報費の一部を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

子どもの貧困に向けて子ども食堂の動きが全国にひろがりつつあり、暖かな希望を持ちます。しかし、貧困の背景にある社会問題、構造的な問題に対しては、他にも様々なアプローチが必要だと考えます。私たちはボランティア活動とも営利事業とも異なる仕組みで、食を中心にしたもう一つの家族を地域につくることを考えました。食事作りや片づけのコツを学んだり、おしゃべりしてくつろいだりを重ねて、徐々につながりを作り、参加者の中から運営する人が生まれていくことを目指しています。まずは団体の事務所のあるオルタナティブ生活館（新横浜）の調理室と和室を借りてスタートします。

初めてチャレンジする自主事業です。応援、ありがとうございます。



「みんなで作る」



「みんなで食べる」



「ホームページとキャラクター（おるた君、なっちゃん、おるワン）をつくりました。」

交流スペース「ほっと舎」運営委員会

委員長 野副妙子

藤沢市

助成金額
390,000円

団体紹介

設立年月

2015年6月

団体の目的・活動内容

少子高齢社会を迎える今、住み暮らす家で暮らし続けるために、人が集い語らう福祉の拠点をつくり人のつながりをつないでいくことを目的とする。

この間の実践を通して地域にあって良かったと思っている方が地域に受発信し活動している。

取り組んでいる活動の思い

①一人暮らしの方や高齢夫婦で暮らしている方が多くなってきています。一週間誰とも話をしない日もある中で、このままだと認知症になったり社会から取り残されていくのではないかと心配しながら暮らしている時「ほっと舎」を知り、人と会って話したり、特技や趣味が活かされ、そして社会参加や社会貢献している事に気がつき元気になっていきます。

「ほっと舎」を多くの方に知ってもらい利用されることで地域が元気になると信じ、人から人へとつないでいく活動を目指しています。そのことは、自分の住み暮らすまちだから関心につながっています。

②運営面に置いてもバザーの開催、バザーの提供品の呼びかけを行いながら行っています。2015年9月の呼びかけから2016年3月には倍以上の参加につながっています。

活動歴

①交流スペース「ほっと舎」の開設からは1年半になる。②藤沢市の縁側事業受託にあたり、市民と共に地域づくりを進めるために交流スペース「ほっと舎」運営委員会を設立し、通信をポスティングしたり、友人や近隣の方々に「ほっと舎」の活動やイベント等の案内を行ってきている。

②毎週木曜日以外の10時～16時に開所

団体情報

住所 〒251-0862

藤沢市大庭5348-16 高橋ビル202

ワーカース・コレクティブ「実結」内

交流スペース「ほっと舎」運営委員会

TEL/FAX 0466-54-9681

Mail qqvv5pm9k@wish.ocn.ne.jp

❀ 助成した事業・活動

藤沢地域の縁側（交流スペース）事業「ほっと舎」の運営

❀ 内容

子どもから高齢者、障がいをお持ちの方、子育て中の親などが気軽にいつでも高齢者が持つ文化を次世代の子供たちに継承し地域を豊かにしていく場の運営

❀ 助成対象

家賃の一部を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

- ①固定費としての家賃が半額助成され、活動の励みになりました。心のワクワクは次なる活動のステップになります。
- ②縁側事業はお金が入る事業ではありません。むかしは家に人を呼び語らったりして地域のコミュニティがあったように、縁側事業を通して利用者と利用者のつながりを広げていきたいと思えます。
- ③人が集まる場所を通して隣近所の付き合いが復活していることに気づかされと利用者からの声があります。
- ④「ほっと舎」の事業は縁側事業にとどまらず、地域の福祉の拠点となり市とのまちづくりのパートナーとなる事業に取り組みます。



健康麻雀
週2回
(始めての方には
熟練者が教え合い
しながらの麻雀)



3B 体操
(月2回)



一品持ち寄り会
(月1回)

団体紹介

設立年月

2013年1月23日

団体の目的・活動内容

子育て支援

取り組んでいる活動の思い

新横浜はもともとは商業地域でしたが最近マンションが増えており子育て世代が多く住んでいます。地域に知りあいもなく子育てするママ達も多く住んでいます。こういうエリアだからこそ在宅保育をする世帯も多くあり、子育てする人の集まれる場所が必要だと感じています。情報収集、気分転換、子ども同士の触れ合い、子育て友達作り…すべて子育てに必要なことです。

2013年から親子ひろばを開催し、制度では対応できない一時預かりのニーズが多いことに気づきました。

活動歴

2013年

親子ひろば「わっとほーむ」開所

2015年

預かり専門「きっずわっと」開所

団体情報

住所 横浜市港北区新横浜2-8-4

オルタナティブ生活館4階

TEL 080-6779-9092

Mail wthome0913@ezweb.ne.jp

ひろばの開催情報

未就園児（0～4歳）が対象

毎週月・水・木 10:00～13:00開所

ランチタイムは 12:00～13:00

ひろば時間内の一時預かり有り

わっとほーむ（親子ひろば）ハロウィンパーティー仮装して参加します。オルタ館内に隠れているオバケからお菓子をもらいます。



助成した事業・活動

一時預かり「きっずわっと」運営

内容

自分の時間を持ちたいと感じている親、近所付き合いが薄く子ども同士のふれあいが少ないため子どもの社会生活に不安を感じている親のための一時預かり事業

助成対象

イベント費用・ワーク費の一部を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

2015年度に利用してくれていた保護者の方々からは子供の成長や自分の時間の使い方など好評をいただいたので、やはりニーズがあるのだと確信しています。

さらなる利用者の発掘に力を入れていきたいと思っています。親子ひろばわっとほーむが開催されてから4年目を迎えますが、知らなかったという人はまだまだあり、周知の甘さを感じています。新横浜は賃貸マンションも多いので 出入りが激しく常時広報していかなければと考えています。



わっとほーむ（親子ひろば）
どうぶつわっと
お父さんと一緒に身体を使って遊びます。平日は保育園に行ってる家族も土曜日なら参加できます。



きっずわっと（預かり事業）
公園遊び 近所の公園に遊びに行きます。寒い日でもみんな走りまわるから上着を脱いじゃいます。



きっずわっと（預かり事業）
室内遊び
なんでも使って遊びます。みんなで協力してイスを運んでつなげよう！電車ごっこ？イスわたり？

スタイルきっず

代表 坪江久美子

横浜市瀬谷区

助成金額
200,000円

団体紹介

設立年月

2013年4月1日

団体の目的・活動内容

このサークルは「講師もスタッフも参加者も、同じ目線で共に楽しく子育てを頑張っていこう」という運営理念のもと活動している。

親子向け講座、子連れで参加できるママ向け講座、交流会を企画・実施している。

取り組んでいる活動の思い

慣れない育児、引っ越し先での生活、身近に頼れる身内がないなど子育て中のママは孤独感を味わいがちである。

「親子が楽しい時間を過ごせる場を作れないか。」そんな思いから始まった子育てサークル。

「子育てという貴重な経験を楽しんでほしい」、「親子が笑顔でいられる場所と時間を、講座や交流会を通して提供していきたい。」

子育て真っ最中の私たちが同じママとして、孤独感を味わうことなく皆が子育てを楽しめる環境作り、心作りの場を作り上げていきたい。

活動歴

専門の講師による「親子でスキンシップ」講座年間85回（2015年度）実施。

子育てに関するテーマを設けた交流会（おやこみゅ：親子コミュニティ）では、現役ママだからこそわかる今必要とされる情報の共有、提供も行っている。

団体情報

住所 〒246-0023

横浜市瀬谷区（非公開）

TEL 080-6553-0298

Mail music-style@nifty.com

助成した事業・活動

「スタイルきっず」新規事業の開催

内容

核家族化で身近に頼れる存在がなく、不安を抱えながら育児をしている子育て中の皆が気軽に交流できる場の提供

助成対象

新規事業全体にかかる交通費、講師謝金、広報費、会場費の1/2を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

サークルを立ち上げ4年目に入ります。これまでたくさんの親子に各講座・交流会に参加いただきました。

参加された皆様の感想を聞く度にこうした活動の必要性、継続性の大切さを感じます。

サークルの運営には理念に賛同してくれたママさんがスタッフとして協力してくれており、それぞれが大きな負担がなく長くサークルを運営していくことが重要だと考えています。

この度助成をいただき、今年度も活動が継続できることをとてもうれしく思います。少しでも多くのママさん、お子さんが笑顔でいられる場を提供できるようにしていきたいです。



「親子で英語」
英語の歌、クラフト等を
親子で楽しめます。



「英語リトミック／ベビーリトミック」
パラバルーンも使用して音楽に合わせて
体を動かします



「骨盤☆ボディケア」
子連れで参加できる
ママ向け講座です。

ほんそん子ども食堂「いただきます」実行委員会

委員長 早川仁美
茅ヶ崎市

助成金額
200,000円

団体紹介

設立年月

2015年10月

・さいとうさんち運営委員会2012年8月～
・地域のお茶の間研究所さろんで2015年10月～

団体の目的・活動内容

居場所、サロンに関する活動（事業）を行うことにより、地域社会のつながりを築き、地域福祉に貢献する事を目的とする。

取り組んでいる活動の思い

生きにくさを抱えた子ども若者、子育て不安を抱えた親子、生活困窮世帯の子ども、親子、地域から疎外された子ども若者や親子に支援を届けるために、地域で「困っている」を発信しやすくキャッチしやすくする必要があります。このような支援を必要とする子ども、若者、子育て世帯が気軽に来られるような子ども食堂を開催することで、みんなで一緒に夕食を食べ、友だちと、お姉さん、お兄さん、おばさん、おじさんと楽しく過ごす場となり、子育て中の保護者がほっとでき、思いを共有できる場となるようにしていきたい。

そして、子ども食堂の活動を通して、地域の大人と連携し、そのネットワークや資源を活用して、子どもの課題解決に向けていきたいと思います。

活動歴

さいとうさんち

2012年8月～ 毎週水曜日

プレママと赤ちゃんの日

2013年4月～ 月1回不定期

傾聴講座 2015年 4回連続講座2クール

ほんそん子ども食堂「いただきます」

2015年11月～毎月1回第3木曜

団体情報

住所 茅ヶ崎市赤羽根136-11

TEL 080-5536-8096

Mail saitosanchi822@yahoo.co.jp

❀ 助成した事業・活動

ほんそん子ども食堂「いただきます」の運営

❀ 内容

支援を必要とする、子ども、若者、子育て世帯が気軽に来られるような子ども食堂の開催

❀ 助成対象

備品購入費、企画費、施設使用料を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

子どもをめぐる課題、事件、事故が報道されない日はありません。一方、全国的に子ども食堂の広がりを見せ、子ども食堂への期待感が窺われます。

この度、私たちの子ども食堂への活動に助成をいただき心から感謝申し上げます。そして、同時に、私たちの子ども食堂が、子どもたちや親子の支援につながる活動となるように、また、地域の大人たちとしっかり連携を取り、傍観者ではなく、ひとりひとりが一緒に考え、参加する人を増やしていかなければと意を新たにしました。



集会室での食事の様子



食事後2階の部屋で
大学生と遊んでいる様子



手作りコロッケ、切り干し大根の
煮物、みそ汁、ご飯、果物

親と子の寺子屋 ふれあい自遊塾

代表 加藤啓子

平塚市

助成金額
399,233 円

団体紹介

設立年月

2015年10月

団体の目的・活動内容

近年、子どもの問題が多発深刻化している。心の成長を促すことが予防と回復につながるとの考えから、子どもたちが安心して自分への自信と人とのかかわりあう力を身につける体験の機会を提供する。

取り組んでいる活動の思い

人が育つ環境が大きく変化して人間関係が希薄化し、子どもの健やかな成長が難しくなっています。電子ゲームの普及で人とのかかわりあう遊びが少なくなっていることも大きな要因のひとつです。また働く親が増え、子どもとのかかわる時間がない、子どもの育ちが心配だけれどどうしていいかわからない親御さんも増えていきます。

短い時間でも遊びの要素が凝縮されたアナログゲームを中心としたワークショップを、安心できる雰囲気の中で親子、仲間と楽しく体験する機会を提供します。親子が向き合うことで関係を深めるとともに、子ども同士で自己主張と譲り合いを繰り返し、自分らしく周りに適応する柔軟性を身につけていこう応援したいと思います。

活動歴

公民館家庭教育学級の継続として、少人数ワークショップが始まりました。

現在は、少人数制継続ワークショップと自由参加のワークショップを各々月1回実施。1年間で延べ子ども150人、親100人が参加されました。保育園児たちにも実施しています。

今年度は、気軽に体験できる機会として、ひらつか西海岸デポー内コミュニティカフェで月1回開催します。

団体情報

住所 平塚市（非公開）

TEL 0463-33-6198

Mail t-jiyu-juku@wind.ocn.ne.jp

助成した事業・活動

親と子の寺子屋・ふれあい自遊塾の活動・運営

内容

臨床心理士の経験をもとに、現在の社会において欠けがちな、子どもたちが人と触れ合う体験をワークショップやゲームに取り入れ、人と触れ合う体験を創出・提供する

助成対象

パンフレット作成費・ゲーム購入費・事務用品費を助成

助成を受けて…の思い・メッセージ

長年の経験から、今できることを、今だからできることを、という思いで始めた小さな活動です。

助成金をいただきましたことは、活動の趣旨を理解していただき社会的信頼性も得られたということで大変嬉しく、勇気づけられます。

子どもの好みや発達段階に応じられるようゲームの種類を増やし、多様な場での展開を図りながら活動趣旨の啓蒙普及に努めたいと思います。これからも地道に丁寧な活動を続けてまいります。



相手の指示に、自分の手足をどこに置こうかと判断選択
ルールがあるのも、体のバランスが崩れるのも、楽しい！



認知や協調性が高まり、ワクワクしながら自分の順番を待ちます。「早く僕の番が来ないかな」



崩さないように、知恵をしぼって、指先使って、脳が活性化。真剣です。

1期～4期福祉たすけあい基金助成団体



	名称	活動地域	事業内容	助成金額
1期	NPO 法人グランマ	横浜市	児童発達支援・放課後等デイ・サービスの運営	800,000 円 人件費等
	子育て支援 W.Co mon Ami	横浜市	オルタ館4階での親子ひろばの運営	350,000 円 人件費等
	街の家族実行委員会	横浜市	「人と人・技と技、皆が繋がる街の家族」の世代を超え地域をつなぐ活動	420,000 円 人件費等
	ひまわりの会	横浜市	地域の外国籍の子どもたちの学習支援サポート	600,000 円 外部研修費
	NPO 法人ワークーズ コレクティブ協会	県域	障がい者、社会経験の少ない若者の就労支援・社会参加の場づくり	999,600 円 ジョブコーチ費
	大場町みんなのいえ W.Co 準備会	横浜市	大場町みんなのいえ・サロン&まちの台所の運営 (多世代が交流できる場、地域の働き場の運営)	500,000 円 人件費等
	NPO 法人ぷかぷか	横浜市	障がい者と地域の人との交流をはかる 「みんなでワークショップ」開催	493,500 円 会場費 講師費
	ReBit (リビット)	東京・ 神奈川など	LGBT(性的マイノリティ)のこどもも安心して相談できる 保健室づくりプロジェクト@神奈川の活動	186,000 円 運営費
	大倉山ドキュメンタリー 映画祭実行委員会	横浜市	大倉山ドキュメンタリー映画祭を通じて地域交流、地域の 活性化をはかる活動	165,000 円 広報費等
2期	NPO 法人 Music of Mind	藤沢市	知的障がい者の音楽活動を通じた就労の場と繋がりづくり	678,710 円 楽器購入費等
	NPO 法人「CLIP・あこーん」 電話相談室	横浜市	心をつなぎ、心をつぶボランティア電話相談事業 (寄り添いつつ相談に応じる無料電話相談)	558,200 円 家賃補助
	NPO 法人大和子どもミニ ディサービス W.Co もこもこ	大和市	子ども子育て新法による認可保育園移行に向けた支援	295,920 円 イスの購入費等
	Charkhafe チャルカフェ	小田原市	親子で利用するキッズスペースの運営(子育て世代の地域 社会づくりをめざす居場所づくり)	368,000 円 整備費用等
	おしゃべりッチ∞	横須賀市	孤立しがちな子育て中の親子ひろばの運営	17,000 円 会場費
	認定 NPO 法人エンパワメント かながわ	県域	1万人の子どもに CAP を届けるキャンペーン・次世代育成に学生 がかかわる仕組みづくりプロジェクト	421,220 円 研修費等
	就学前親子のためのふれあい サロン「いぬぞう」	川崎市	新旧住民をまき込んだ就学前親子のための「ふれあいサロ ン」の運営	109,214 円 チラシ作製費
	NPO 法人ひまわりの会	横浜市	外国籍の子どもたちの生活サポート事業	100,000 円 研修費
	湘南小麦の会	湘南エリア	手づくり小麦で元気を分け合う交流会の開催(農を通じた認知症・ 障がい児者・ケア者エンパワメント)	150,000 円 脱穀機購入等
	アートが子どもたちを 訪ねて来る会	横浜市	フォスターケア(里親制度)で暮らす子どもたちを訪ねるアートプログラム(施設や 里親家庭で暮らす子どもたちのアートを通した「再認識した自分」発見)	160,000 円 ワークショップの備品等
	NPO 法人アール・ド・ ヴィーヴル	小田原市	知的障がい者向けの多機能施設開設(障がい児の個性を輝 かせる仕事を生み出す場づくり)	800,000 円 設備費一部
	神奈川わかものシンクタンク	相模原市、 県域	中学生を対象にしたみんなで楽しく「神奈川県防災副読本」 作りと活用	286,636 円 印刷費一部
	NPO 法人楽竹会	横浜市	創作「竹琴太鼓」を使った高齢者による高齢者施設訪問演 奏活動(高齢者の地域貢献活動)	200,000 円 データ解析費
	財団法人 神奈川県母子寡婦 福祉連絡協議会	藤沢市	シングルマザー支援のための保育園開設 (ひとり親家庭を支援する保育施設の増加をめざす)	500,000 円 工事費用一部

	名称	活動地域	事業内容	助成金額
3期	NPO 法人たすけあい・ゆりの木	横浜市	高齢者・障がい者交流サロンの拡充とカフェの運営	100,000 円 備品購入費
	NPO 法人たすけあいあさひ	横浜市	エレベーターの無い大規模団地の上下移動支援の地域ワーク ショップ開催と政策提言活動	299,000 円 開催費用
	NPO 法人 W.Co ケアびーくる	大和市	移動制約者のための介護付き移動サービス事業	280,000 円 車検費用一部
	W.Co ゴジママ	横須賀市	ニーズに応える新規学童保育施設設立で、児童の放課後 生活を支援する	450,000 円 運営費の一部
	NPO 法人ふじさわ団塊塾	藤沢市	生きててよかった、出前講座で生きがいつくり (元気な高齢者が要介護高齢者をサポートする)	170,000 円 備品費等
	NPO 法人まんま	横浜市	Baby サロンまんま@大和の運営 (隣接する大和市での) 乳幼児・親の居場所立ち上げを支援する	350,000 円 会場費
	NPO 法人ドリームエナジー プロジェクト	藤沢市	ダウン症児の音楽ライブ活動による豊かな社会参加促進	510,000 円 交通費
	認定 NPO 法人 かながわ福祉 移動サービスネットワーク	県域	地域包括ケア・生活支援サービス訪問型サービス D (移動サービス) を推進する学習会、シンポジウム	450,000 円 チラシ費等
	NPO 法人子どもと共に歩む フリースペースたんぽぽ	横浜市	不登校の子供たちの学習・相談交流室開設事業の拡張 (居場所を見 いだせない子ども・若者が安心して過ごす居場所のスペース拡張)	513,000 円 運営費の一部
4期	NPO 法人 Ocean' s Love	茅ヶ崎市	1 人の知的障がい児を 4 人で支えるボランティアによる サーフィンスクールの運営 (茅ヶ崎から全国へ)	500,000 円 ボラ費用一部
	海老名女性支援電話「そよ風」	海老名市	悩みや相談を打ち明ける相手のいない特に女性たちに、 傾聴を基本としたボランティアな電話相談	102,383 円 エアコン購入
	おもちゃひろばロリポップ	藤沢市	知的障がい児対象の布製おもちゃ貸出 (知的障がい児の コミュニケーションや生活習慣の定着をねらう)	300,000 円 おもちゃ制作費
	NPO 法人ハッピーマザー ミュージック	横浜市	孤独になりがちな子育てを支援し、親子で楽しめる育児支援 コンサート・人形劇	223,679 円 人形制作費等
	NPO 法人 湘南 NPO サポートセンター	平塚市	「ひらつか地域づくりサポーターズ育成事業」で市民参加の 総合的な地域力を発揮するしくみを作る	170,000 円 研修費
	ピアサポート横浜	横浜市	がん体験者によるがん患者・家族の抱える悩みへの電話相談・ サロン	280,000 円 チラシ費
	NPO 法人海さくら	藤沢市	江ノ島海岸での環境美化 (水質検査) をつうじたまちづくり 活動	340,000 円 水質検査キット
	NPO 法人赤いふうせん地域 活動センター工房和丘	川崎市	障がい者の自立を支援する作業所 スタッフのスキルアップ	164,760 円 研修費用の一部
	子育て応援隊 FROM こうほく net ほいっぴ	横浜市	缶バッジ配布で子育て支援者を広げる 「港北子育て応援缶バッジ普及プロジェクト」	350,000 円 缶バッジ制作費
	NPO 法人ピープウ・ラボ	横浜市	子どもの育ち相談日「ぼれぼれ」での言語聴覚の専門家の 相談による障がい児者支援	425,000 円 講師謝金等
	一般社団法人 結	葉山町	葉山町初の児童発達支援・放課後等ディ立ち上げ支援	277,639 円 パソコン費用
	南林間子育てネットワーク せるくる	大和市	南林間デポーを中心にした「なかまほいく @ 南林間せるくる」 で子育てしやすい街づくり	66,000 円 チラシ印刷費
	一般社団法人ファースト ステップ	川崎市・県域	フードバンクかながわ設立準備事業 (経済困窮家庭の命を 支えるための県域組織設立を準備する)	189,670 円 チラシ費他



子どもいきいき助成 助成団体一覧



神奈川労済生協（全労済神奈川県本部の寄付によるオーダーメイドプログラム）

学童保育所ネスト	小田原市	子育てを経験した地域の女性（ママ）たちによる放課後学童保育事業。家賃の一部補助。	150,000 円
スマイル ミニシティプロジェクト	相模原市	学生が子どもたち共に、仮想のまち「相模原の子どものまち」をつくり運営する体験イベント開催費用一部助成	100,000 円
神奈川区国際協力ネットワーク	横浜市 神奈川区	外国につながる子どもたちへの学習支援者養成講座開催費用（講師謝金、教材費、ボランティア交通費など）を助成	100,000 円
萩園いこいの里ロビー活動実行委員会	茅ヶ崎市	「孤食」「食抜き」等子どもの貧困を背景に食を通じた居場所づくり。「食べよう会」、絵本読み聞かせ等開催費用を助成。	159,000 円
おしゃべリッチ∞	横須賀市	子育てママの居場所活動。市内の他団体との交流を豊富化するための活動費用や独自イベントの開催費用の一部を助成。	72,600 円
NPO 法人あすなろ	横浜市	生活保護世帯や経済的困窮の家庭の子どもたちへの学習支援「あすなろ塾」のボランティアの交通費の一部を助成。	200,000 円
しのばらんど	相模原市	福島の子どものための保養活動。2016 年 3 月実施分の交通費の一部を助成。	70,400 円
紙芝居文化推進協議会	神奈川県	市民が中心となる「手づくり紙芝居コンクール」の審査員の交通費。	50,000 円
青空自主保育「でんでんむし」	鎌倉市	青空自主保育グループの保育のレベルアップを図る講座講座開催費用を助成。	98,000 円
助成総額			1,000,000 円

事業指定助成プログラム「エラベル」 助成団体一覧



エラベル 1 期（2014 年度）

認定 NPO 法人湯河原地域作業所たんぼぼ	湯河原町	地域で行き場がない障がい者の受け入れ拡大のための施設拡張。設備備品の調達	1,430,862 円
NPO 法人フェアスタートサポート	神奈川県	18 歳で施設を離れ一人で社会に出る子どもたちのキャリアアップ。就労体験・資格取得費用	299,196 円
認定 NPO 法人地球学校	横浜市	外国につながる子どもたちの日本語力アップを支援する漢字教材開発と普及活動	319,154 円
「福島の子どもたちと共に」川崎市民の会	川崎市	放射能汚染土と隣り合わせに暮らす子どもたちの保養プログラムの実施費用	205,506 円
計			2,254,718 円

エラベル 2 期（2015 年度）

認定 NPO 法人エンパワメントかながわ	神奈川県	いじめ、虐待、性暴力などあらゆる暴力から子ども自身が身を守る CAP プログラム実施。	638,095 円
ソーシャルコーディネイト神奈川	神奈川県	若者と共に地域や社会の課題を見つけ、解決の方法を学ぶ合う場づくりの実施	205,700 円
NPO 法人フェアスタートサポート	神奈川県	18 歳で施設を離れ一人で社会にでる若者たちの公平なスタートを応援する就労支援事業	459,850 円
ミニシティプラス	横浜市 都筑区	町の課題に気づいた子どもたちが大人と一緒に街づくりにチャレンジする	279,309 円
企業組合ワーコレキャリー	神奈川県	誰もが働ける場づくりを、働きづらさ生きづらさを持つ若者とワーカースが協働でつくる	1,730,600 円
計			3,313,554 円

※ エラベル助成は、寄付総額から財団運営費 15%を引いた金額を助成しています。上記に記載した金額は助成額です。

「子ども・若者の貧困に立ち向かう市民活動」を支援する福祉たすけあい基金

福祉たすけあい基金は子ども・若者の貧困に立ち向かう市民活動を支援します。
2016年度は子どもの貧困を知ることから始めます。
キックオフフォーラム（7/23）と地域フォーラム（秋）を開催します。

キックオフ&地域フォーラム

子ども・若者の貧困に立ち向かう

キックオフ

2016年7月23日（土）

10:00～12:30

ユニコムプラザさがみはら

●基調講演 山野 良一氏

「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク世話人

『子どもに貧困を押しつける国・日本』

貧困は、孤立・虐待・生活習慣の乱れ・孤独・学習の遅れ・引きこもりにつながり、社会全体を衰退させます。私たち市民は貧困に対する国の施策として経済支援の充実にむけた声を上げ、同時に子ども・若者の貧困に立ち向かう市民活動に取り組み、社会の課題として位置付けることが重要です。市民基金では市民が主体となって地域フォーラムを開催し、活動を支援するネットワークづくりと、市民の寄付による助成を拡げます。

例えば横浜市の調査では

44,000人の子どもが
貧困です。一人親世帯
の46%が貧困です。

貧困家庭の47%
が必要とする食料
が買えないことが
ありました。

貧困家庭の15%
が医療費を払えな
くて病院へ行けま
せんでした。

社会的養護を必要
とする子どもは
880人います。

毎年1,000人の
子どもの虐待が発
見されています。

生活保護受給家庭
は20年間で3.4倍
となりました。

10,415人の子ども
が生活保護家庭で暮
らしています。

神奈川県が児童扶養手当受給の
ひとり親家庭に実施した
アンケートでは

居心地の良い家庭環境を作りづ
らい。非行防止のために子ども
の居場所を一緒に考えてほしい。

親の留守中に子どもが寂しい思
いをしている。大きくなったか
ら良しというものではない。

こんな調査は初めてでした。声
を聴いてくれる感じがします。
是非来年もやってほしい。・・・
という声が。



「子どもに貧困を押しつける国・日本」
著者

戦後の貧困とは異なる静かな貧困
が広がる日本。児童相談所に長年携
わり、景気の回復では改善されない
貧困の実相や構造を解説し、子ども
の生活の「質の改善」を目指す方法を
模索する。

「特に少子高齢化が進む今、高齢者
だけでなく、未来を担う世代への投
資も同様に議論されていいと僕は思
う。裕福な高齢者に我慢してもらっ
た分を子どもに回すとか、その程度
でいいんです。当の彼らはどんな目
に遭っても親を責めることはなく、
貧困状況まで自分に非があると言う
子もいる。彼らをこのまま放置する
のか、〈家族依存社会〉から解放する
のか、決めるのは市民です」

●実践団体からの報告

ほんそん子ども食堂 早川仁美さん
(第5期助成団体)

フードバンクかわさき 高橋実生さん
(第4期助成団体)

志ある寄付をお願いします

かながわ生き生き市民基金は2016年度「子ども・若者の貧困に立ちむかう市民活動の支援」をテーマとして活動しています。

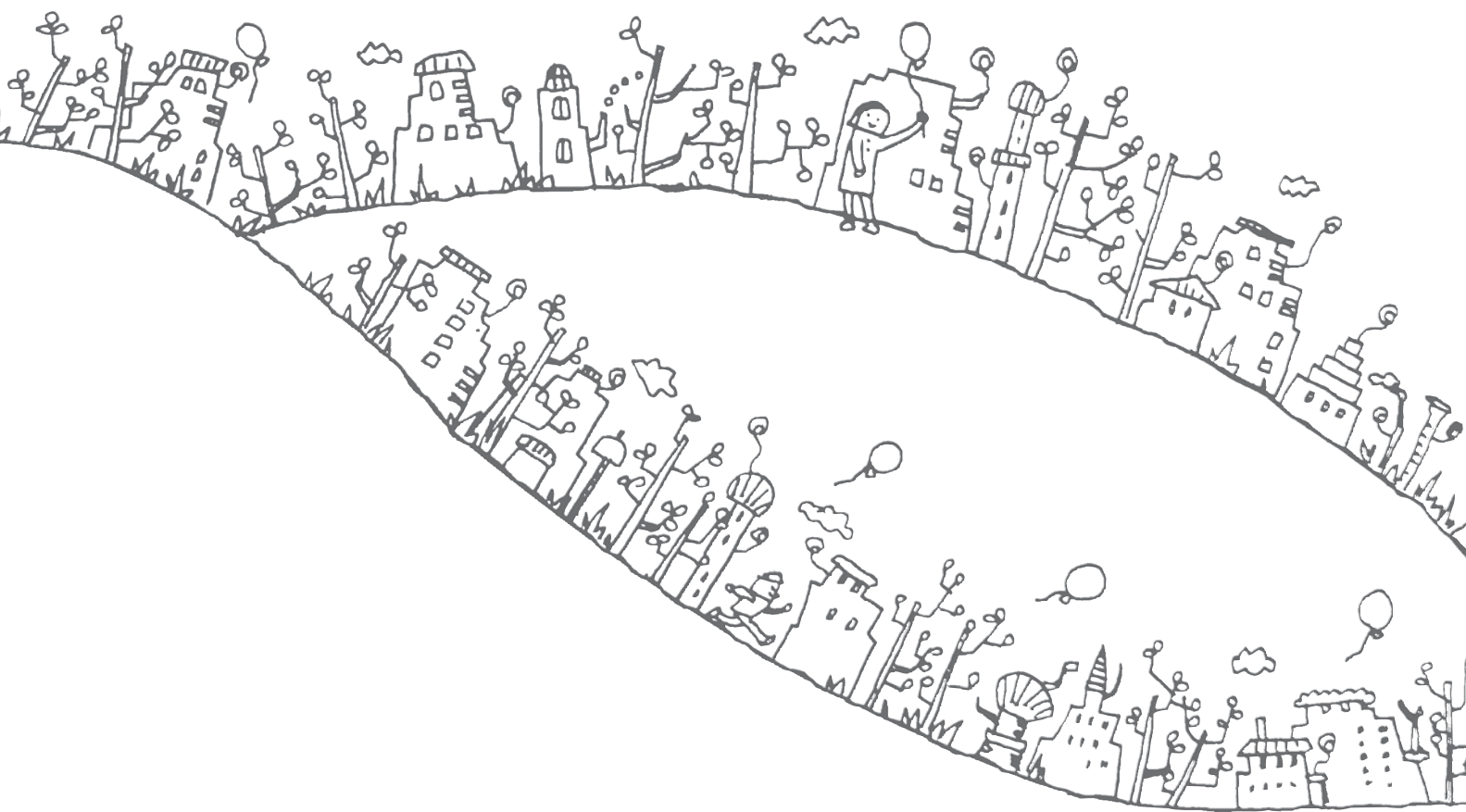
かながわ生き生き市民基金の助成プログラム「福祉たすけあい基金」の活動をご支援ください。「福祉たすけあい基金」は、地域の福祉たすけあいにかかわる活動を支援するために、志金の寄付募集を行っています。

月100円1年間1,200円を3月にご意志を確認したうえで引き落としさせていただきます。引き落としの金融機関はどちらでも可能です。停止される場合は、毎年の確認時にお申し出ください。

基金事務局までご連絡いただければ、詳細をご説明させていただきます。

生活クラブ生協の組合員の皆さんは、寄付登録されると、共同購入代金と併せて毎月100円を自動引き落としさせていただきますことが可能です。

税制優遇に活用する領収書を発行します。



発行：公益財団法人 かながわ生き生き市民基金

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル6F

Tel: 045-620-9044 Fax: 045-620-9045

Mail: info@lively-citizens-fund.org

URL: <http://www.lively-citizens-fund.org/>

Facebook: <https://www.facebook.com/livelycitizensfund>

発行日／2016年6月1日